



2020年を振り返って

2020年を振り返って、印象に残った出来事について述べてみます。

感染症問題

なんと言っても「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」が最初にあげられます。2月あたりから急速な広がり、学校の休校、飲食店舗の休業が始まり、別府市でも基幹産業である観光関連産業が大打撃を受けました。

様々な経済回復対策も行われましたが、感染拡大の2波・3波と続く波に効果は限られてしまっています。

今、重要なのは、困窮している家庭や事業者への更なる支援だと思います。そして、感染対策をしながら感染の落ち着きを待ち、ワクチン接種の効果に期待するばかりです。

皆さん方も、本当に苦しいと思いますが、明けぬ夜はありません、乗り越えていきましょう。



災害対策 経済対策 財政再建

続いて、政策について。安倍政権から菅政権に代わり、新たな時代が始まりました。野党においても、新党として新たにスタートした立憲民主党に社民党の分裂による合流が進められています。

その中でこれからの国の政策課題は、まず新型コロナウイルス感染症や毎年のように起きる災害等への危機対策、経済回復、再生可能な環境整備、さらに待ったなしとなっている財政再建ではないかと考えます。

大分県でも、経済回復や災害防止対策の他、道路や河川・橋などの長寿命化などのインフラ整備が急務です。また、国ほどではありませんが、これからも財政の健全化^{注1}を図っていくことが求められます。

とりわけ、来年度の予算編成は感染症対策、そして感染拡大の影響に伴う県の税収の大幅減少が予想されることから、行政の舵取りは本当に難しくなっています。

注1 財政の健全化を示す指標は、財政力指数・經常収支比率・実質公債費率・将来負担比率等がありますが、大分県ではいずれの数値も九州中位です。安心はできませんが、まだ健全な財政運営ができていけると言えます。

監査委員として

2020年は、第1回定例会で選任された監査委員としての職務もありましたので、例年以上に慌ただしい毎日でした。監査委員としての守秘義務がありますので具体的な内容は述べませんが、コンプライアンス（法令）遵守や効率化の視点で、会計や事業内容をじっくり見直すことができたのは、これからの議員活動に活かされます。

県には、本庁内の部局だけでなく、県立病院や保健所、各種事務所、県立高校等も含めて多くの出先機関があり、その事業内容も多岐にわたります。

例えば、畜産や水産、産業科学技術など、県には様々な研究機関があります。それらの地道な研究から、おおいた豊後牛やイチゴのベリーツなどが大分県の新特産品となって、流通に乗り全国に広がっています。

県行政が様々な業種、そして私たちの生活へとつながっていることを監査を通して再認識しました。



10月に行われた決算特別委員会の際には、私は監査委員として出席。初めて執行部席側に座りました。いつもと違う景色に少し戸惑いました。（最前列の右端）

番外

番外として、夏に私の事務所に車が突っ込みかけたというお話。事務所前のコンビニから出てきた車がブレーキとアクセルを踏み間違え、事務所前のスロープを登って事務所のドアの10cm手前で停止しました。幸いにも、怪我をされた方はいませんでした。

一昨年4月に東京都池袋で発生した暴走事故も記憶にありますが、あらためてこのようなことが起きるんだと感じました。

全ての方々が被害者・加害者にならないために、踏み間違い防止装置の奨励や運転免許を返納をされた方々への支援を拡充していく必要があると考えさせられる出来事でした。